

■新しい体系(案)

分野別の目標／基本的な方向	分科会での主なご意見	現行計画との対照	既存の事業	事業につながるご意見等
1. 国際理解を育む機会づくり				
(1) 交流の機会の拡充	<p>○国際交流フェスタはできれば複数回やった方がよい。たとえば毎回国を変えて実施すれば、外国人も、出展者としてだけでなく、来場者として楽しめるのではないか。</p> <p>○国際交流フェスタの会場で、交流する仕掛けが拡充するとよい。</p> <p>○UNWOMEN や大学、留学生、ABK などの地域資源の活用することで機会の拡充が可能ではないか。</p> <p>○交流の機会の対象として外国人住民も含まれていることを示した方がよい。外国籍の子どもたちへのアプローチも必要。</p> <p>○オリ・パラをきっかけとした交流を事業として含めたい。ただ、オリ・パラのときに何をするかではなく、「変化」のきっかけとして活用するとよい。</p> <p>○教育との連携は大事だと思う。教育分野との連携はむずかしいかもしれないが、情報共有を図り、適宜発信するなどは考えられるのではないか。</p>	2-(1) 2-(2) 2-(3) 3-(2)	・国際交流フェスタ	<p>・交流への意識づけ、マインドの醸成</p> <p>・国際交流フェスタの充実</p> <p>・日本語による交流機会の提供</p> <p>・子どもへの接触機会の提供(オリ・パラも活用)</p> <p>・留学生との交流機会</p> <p>・企業との連携</p>
(2) 海外都市との交流の活性化	<p>○カイザースラウテルン市とは計画期間中に姉妹都市提携 30 周年を迎えることを契機にした事業が検討できる。</p> <p>○姉妹都市については小学校の授業で習うが、大人になると忘れてしまう。情報提供を広げた方がよい。</p> <p>○国際交流は区民で既に取り組んでいる人がたくさんいる。そういう人を区が探してはどうか。</p> <p>○英語圏の都市とも交流をもってはどうか。</p> <p>○都市間交流は手間もお金もかかるので、学校レベルや産業交流など、小さな交流を起こしていけるとよい。お互いに目的を共有できる都市と交流できるとよい。それが区民の国際感覚を磨くことにもなる。</p>	2-(4) 2-(2)	<p>・姉妹都市(カイザースラウテルン市)との交流</p> <p>・ベイオウルとの交流事業</p>	<p>・英語圏の都市とのテーマ型交流</p> <p>・カイザースラウテルン市姉妹都市提携 30 周年事業</p>
(3) 国際理解に向けた情報の収集・発信・共有	<p>○子どもの国際交流に、リタイアした世代が協力できることもあると思う。</p> <p>○区が既に取り組んでいる人をサポートして、取組みを広報していけば、他の区民の意識はすぐに高まるのではないか。そうすれば「私もやろう」という人が増えるのではないか。</p>	1-(1) 1-(2) 2-(2)	<p>・国際理解推進講座</p> <p>・地域活動連携事業</p>	<p>・国際交流をしている区民・団体の紹介</p> <p>・海外経験のある区民の活用</p> <p>・区内大学生による情報発信(インターン)</p> <p>・東京大学目白台宿舎等関係機関との連携</p>
2. 外国人が快適に過ごせる環境づくり				
(1) 区の資源を活用した、歴史文化等への理解の推進	<p>○区民の中でも外国人を受け入れる体制もまだ十分でないと感じている。うまく雰囲気、体制をつくっていけるとよい。</p> <p>○留学生が日本の事を知る過程で区民の方が外国人と交流し、国際感覚を養い、区民のレベルから取り組んでいくという視点が大事なのではないか</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの観光客も対象ととらえた方がよい。</p> <p>○区の資源を使って日本の文化を理解する機会をつくるという考え方がよい。</p>	1-(2)	・英語観光ボランティア	<p>・区内文化財を活用した歴史・文化への理解促進</p> <p>・外国とのつながりを意識した区内観光資源の紹介</p>
(2) 外国人の生活・滞在に対する支援	○今後は観光客も住民と同様に大切になると思うので、滞在者に対する視点も加味されたい。	3-(1) 3-(2)	・外国人の日常生活支援	<p>・メールマガジンによる情報提供(ヒアリング)</p> <p>・病院等、緊急時のサポートとなる媒体(ヒアリング)</p> <p>・留学生寮への情報提供(ヒアリング)</p>